倭人

～古代の土を踏んで～

コンセプト

私達の住む青森県には、今世界的に有名な「三内丸山遺跡」がある。この発掘された遺跡が、現代の私達に与えてくれた贈り物だとしたら、これらの遺跡をもっと大勢の人達に見てもらう必要があると考えた。しかし、現状を改めて見直すと発掘調査が終わってその当時の状況を再現しているつもりだろうが、これだけ文明が進んでしまった私達には教科書に書かれている事を確認する程度にしかない様な気がする。

そこで私達は「見て学ぶ三内丸山」を「肌で感じる三内丸山へ」と考えた。

不満

短い・・・

新聞やＴＶなどから得る情報によると現在もなお、発掘作業が活発に行われ、出土した遺跡を数多く展示してると思いがちだが実際行ってみると噂に聞くより、規模が小さく全体的に見るところが少ない。そのため見学時間も短くにしておわってしまう。

いまいち・・・

例えば説明などの場合、他人から写したり、答えを聞くだけではその時点では納得するものの、時間がたつに連れて忘れてしまうものだ。しかし、自分の力で調べ考えて解いたものは不思議と覚えていると思う。

パンフレットや、ボランティアの方々などの見て聞くだけの説明では知るのも早いが忘れるのも早い。つまり、いまいち理解しにくい。

薄い・・・

外を見学した後、体験学習館に行き実際に体験してみた。内容は下の写真のようなものがあった。しかし、いまいち内容が薄く、縄文時代そのものを体験する事が出来ない。

それぞれに説明もなく、関係者もいないので体験しても良いのか分からない状態だった。

所詮・・・

休憩所の中にある売店はとても小さい。ここでも駅前のお土産屋などで置かれている物が多く販売されており、三内丸山ならではの縄文・遺跡に関するものが少ない。ここ特有の名物がないので話題性に欠け、もう一度「欲しい」と思わせるものがない。

満足

もっと！

舟のオールが発見されたことから、川を遡り当時の舟を使った生活を再現する。

当時の状況をより分かりやすくするために多くの住居を復元し、生活感のある集落化させることを考えた。

住居内に動く縄人形を配置したり、縄文人に扮した人が生活する。

子供を対象としたアスレチックを木材で作る。

どっぷり！

「肌で感じ取ってもらう」というテーマに基づき復元された建物や発掘現場、出土物展示場などの施設を回り「三内丸山オリエンテーリング」と称して頭と目と体で三内丸山を体験し学習してもらう。

Q1. 当時の集合住宅は？

Q2. 大型掘立柱は何の木？

Q3. 縄文人がしていたアクセサリーは？

Q5. ヒスイの産地は？

Q4. 各 [illegible] は時代に分類されていたか？

Q6. 植物の茎で編まれた袋は？

満載！

私達が考えた体験コーナーの理想は、真似事だけではなくそれを実際に生かして物事をやってみることだ。火を起こすことに始まり、その火を使い食事を作るコーナーや板に張り付けられた粘土に勝手に縄で模様をつけるだけではなく、実際に粘土をこね、土器や土偶を作り模様をつけたものを窯で焼いてみるコーナー。また来場者が自ら遺跡を発掘できるコーナーなどなど縄文人の生活を体験し学べるようにしたい。

納得！

観光地巡りの最後は観光地ならではのお土産である。しかし、ここ三内丸山にはどこでも買えるような饅頭や餅や煎餅などは当たり前のようにあるが「ここでしか買えない物」が無いことにきずいた。そこで私達は三内丸山人は栗や胡桃などの木の実、栗や古代米などの穀類を栽培して主食としていたことが確認された生活レベルの非常に高い民族であったことから、それらの食品を使用し調理したものを、この遺跡から発掘された縄文ポシェットの復刻版にでも入れて販売するなど、見学から体験そしてお土産まで全てが縄文時代に十分なくらいに浸ってもらおうと考えた。

「どっぷり満載もっと納得」案

まとめ

今年、青森県では「文化観光立県宣言」と題して大々的な青森県の活性化を行っています。三内丸山遺跡はその代表的なものとして注目されています。その三内丸山で私達人類の先祖がどのような生活をしていたのか。このことは当然私達には知る権利があるし、これからの子供たちやこれから生まれてくる子供たちに伝える義務があります。私達はこのことを念頭において三内丸山拡大案を考えました。県内外だけでなく全世界の人々に紹介し、理解してもらうためには「見て学ぶ三内丸山」から「肌で感じる三内丸山」への転換が求められるのではないでしょうか。